

一	「	広	足	中	蘭	そ	「	下	は	と		廊	け	か	状	紅	に	が	心
度	仏	が	下	に	を	う	ち	の	逆	指		下	に	ら	態	蘭	後	こ	で
立	蘭	っ	を	は	追	言	よ	奥	に	示		側	紅	何	に	は	ろ	ち	舌
止	こ	っ	人	は	い	い	っ	へ	駆	を		に	蘭	か	な	襖	ち	ら	を
まり	つ	っ	形	桃	な	な	と	と	け	出		後	は	が	に	に	ら	に	打
仏	ち	っ	が	色	が	が	少	向	出	し		ろ	そ	た	に	遮	に	手	急
蘭	っ	っ	駆	の	抜	ら	年	か	し	な		に	の	ん	ら	れ	を	を	い
を	！	っ	け	傘	く	踏	と	う	な	が		に	奥	っ	こ	れ	差	し	で
少	「		抜	と	。	み	少	。	が	ら		に	の	！	以上	これ	し	出	視
し			けて	少年	慌	出	年		傘	踏		に	部		後	以上	出	し	線
乱			て	と	て	した	和		が	み		に	屋		ろ	後	し	て	を
暴			い	和	て	た	服		向	出		に			に	ろ	て	き	元
に			く	の	振	一	の		か	し		に			下	に	て	い	に
抱			不	女	返	歩	先		っ	な		に			が	に	い	る	戻
き			思	、	っ	目	の		！	と		に			れ	に	る	。と	す
上			議	そ	「	で	視		「	同		に			な	と	同	時	と
げ			な	し		紅	界		」	時		に			い	と	時	。と	、
て			光	そ		蘭	の		」	同		に			い	と	時	。と	少
			景	し		は	の		」	同		に			い	と	時	。と	年
			が	て		仏	の		」	同		に			い	と	時	。と	少

て	い	か	両	「	こ	「	復	蘭	二		ぎ	突	裸	っ	「	つ	仏	「	か
い	瞳	か	脇	ち	こ	あ	さ	は	階		声	き	足	！	人	め	蘭	な	ら
る	が	れ	を	よ	は	り	せ	は	の		だ	当	で	！	じ	声	は	な	、
。初	今	た	抱	つ	。・	え	な	視	造		け	た	廊	「	や	を	紅	の	紅
めて	ま	よ	き	と	・	な	が	線	り		が	開	下	人	な	荒	蘭	の	蘭
見	で	う	肩	仏	ど	い	ら	を	と		止	け	を	い	の	げ	の	の	は
る	見	な	か	蘭	こ	わ	後	前	変		ん	た	踏	！	よ	る	肩	の	は
仏	た	ま	ら	！	な	。な	ろ	方	わ		だ	空	む	怪	あ	。	越	あ	つ
蘭	い	ま	人	し	ん	な	の	と	ら		間	音	物	！	れ	し	は	？	！
の	こ	ん	形	っ	の	の	様	右	な		を	と	っ	！	は	に	に	？	！
動	と	丸	を	か	の	間	子	側	い		右	と	！	怪	つ	遠	の	？	！
揺	な	と	引	り	？	と	を	の	か		に	何	物	、	い	の	い	？	！
し	い	し	き	し	」	に	尋	襖	け		曲	度	化	、	て	い	て	」	！
た	速	て	剥	っ		何	ね	の	て		が	も	物	、	い	く	い	」	！
姿	さ	で	が	！		度	る	間	き		と	往	だ	、	く	景	く	」	！
は	左	右	す	」		も	。	と	て		、	紅	わ	、	色	色	く	」	！
、	に	振	。く			往		何	る		騒	。	わ	、	を	を	く	」	！
反	れ	り	り			往		度	？		」	。	わ	、	見	見	く	」	！
	黒	抜	抜			往		も	」				。	、	。	見	く	」	！
						往		往											

「あれは一体何だったの？普通じゃないわ	る涙を手で拭う。	た仏蘭は「悪かったわね。」と顎まで伝っている	身体を這つてもう一度肩越しに後ろを確認し	るわ。」	「ごめん！もう大丈夫よ。後ろはわたしが見	た。	いた腕には赤く跡が浮き上がってしまったてい	仏蘭の整えられたおぐしは乱れ、押し付けて	力加減や持ち方など考えている余裕もなく、	「えっ？何！？どうしたの？」	「ふがつ、もごっ！」	せていると、胸元で仏蘭が暴れ始めた。	がら、恐怖で頬を伝う涙も拭わず足音を響か	ない。前と右と後ろを何度も何度も見返しな	がっているが長過ぎる廊下の半分も進めてい	に押し付けるように抱え直す。すでに息が上	絶対に落とさないように背中から仏蘭を胸元	「もう！いつもの威勢はどこいったのよ！」	対に紅蘭の冷静さを呼び起こしていた。
---------------------	----------	------------------------	----------------------	------	----------------------	----	-----------------------	----------------------	----------------------	----------------	------------	--------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	----------------------	--------------------

子供と和装の女つてのは不気味だったけどま	だ理解できたのよ。」	不思議と仏蘭の声が聞こえるだけで恐怖感が	和らいでいく。	「問題はあの傘よっ！化け物だったわ！何？	わたしたちみたいな人形と同じようなものだ	と思えばいいわけ？」	その声の大きさが襖の奥の宿泊者に届いてい	ると思うと、疲れていても走ることも速度を	落とすことも容易にはできない。	「あれは、傘（からかさ）って、妖怪じゃ	ない？」	途切れ途切れ仏蘭の興奮を鎮めるために自分	が見た光景から思い当たることを伝える。	「傘？何よそれ？」	「詳しくはわたしもわからないけど、妖怪だ	よたぶん。」	「妖怪？何それ？」	「日本の・・・えーっと、こういうのなんて	言うの。ほらっ、その、神様みたいな。」
----------------------	------------	----------------------	---------	----------------------	----------------------	------------	----------------------	----------------------	-----------------	---------------------	------	----------------------	---------------------	-----------	----------------------	--------	-----------	----------------------	---------------------

て	仏	「	「	「	同	つ	と	と	「	よ	「	う	つ	違	つ	な	き	い	の	
く	蘭	そ	さ	・	時	と	と	仏	違	。	反	気	て	う	窓	い	、	声	る	の
る	は	う	あ	・	に	恐	と	蘭	う	。	対	配	動	。	枠	。	青	や	。	の
場	今	よ	。	・	振	怖	と	は	？		側	が	い	。	縁	。	空	蝉	を	
面	に	ね	。	。	り	と	不	頭	？		に	な	て		を		と	の	使	
。	も				返	安	を	を	！		も	か	い		っ		奥	は	っ	
廊	す				っ	発	し	抱	何		も	か	る		た		に	は	た	
下	ぐ				て	し	よ	え	も		か	も	の		十		今	に	字	
の	近				み	う	う	て	か		も	違	。		字		に	は	が	
一	く				た	と	し	次	！		う	。			中		。	に	中	
番	の				が	し	た	か	一		。				央			。	央	
奥	の				何	し	時	ら	体						に				に	
に	襖				も	し	、	次	。						浮				に	
あ	が				な	つ	。	に	。						か				に	
の	開				い	。		湧	。						び				。	
傘	い				。			き	。						上				。	
の	て							出	。						が				。	
化	何							る	。						っ				。	
け	か							疑	。						。				。	
物	が							問	。						。				。	
	出								。						。				。	

が出てくる場面。右側のベランダに何か張
 り付く場面など、思い描けるだけの怖い場面
 を想像していざという時に備えていた。
 「いやあああああつ！」という叫び声と共
 に首根っこを掴まれたかと思うと一気に身体
 は中に浮き、視界が廊下から五枠の窓へと変
 わり、そしてそれが遠のいていく。
 「なっ、何よ、何よ！どうしたのよ！？」
 と激しく揺さぶられながら状況説明を紅蘭に
 求めるが、「もうやだー！ー」という返事しか
 返ってこない。ぶれる景色の中で今までいた
 謎の空間へと視線を向けると、一瞬だけ空間
 が人型に歪んで見えた気がした。だがそれも
 紅蘭が右に曲がったことで見えなくなつた。
 がむしやらに角を曲がった先には、L字型
 に伸びた廊下とその交点にこちら側を向いて
 下に続く階段があつた。一瞬で自分たちが上
 がつてきた階段の位置が目の前廊下の突き
 当たりだということばかり、へぐるつと回
 ってきたんだ」と理解する。と同時に左側に

